

人間を救うのは、人間だ。 Together for humanity



日本赤十字社
Japanese Red Cross Society

乳がん連携パス勉強会
2020年12月4日
松江赤十字病院6階講堂

乳がん地域連携パスの現状と今後

松江赤十字病院 乳腺外科
曳野 肇



本日の内容

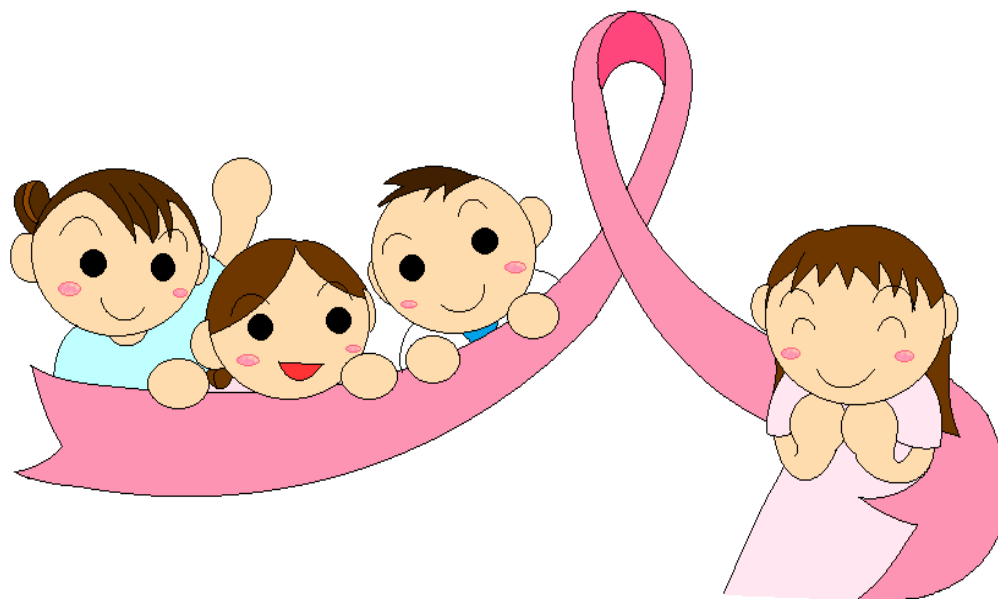
- 連携パスの現状について
- 保険薬局の連携パスご協力をお願いについて



乳癌地域連携パスのあゆみ

2011年4月から乳癌地域連携パス開始

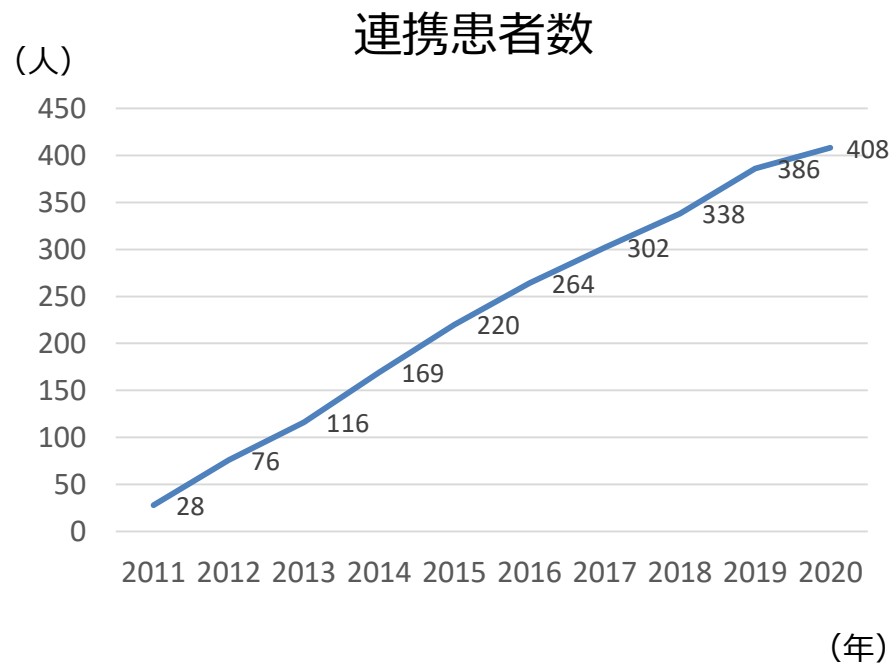
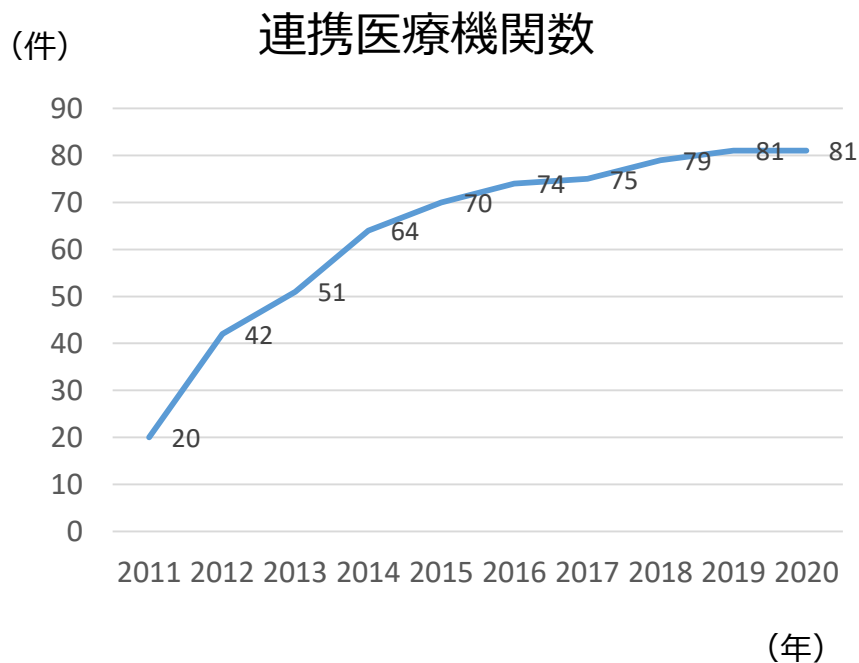
5年目以降へのパス延長、生活習慣病対策など導入



安来第一病院 杉原勉先生の奥様作

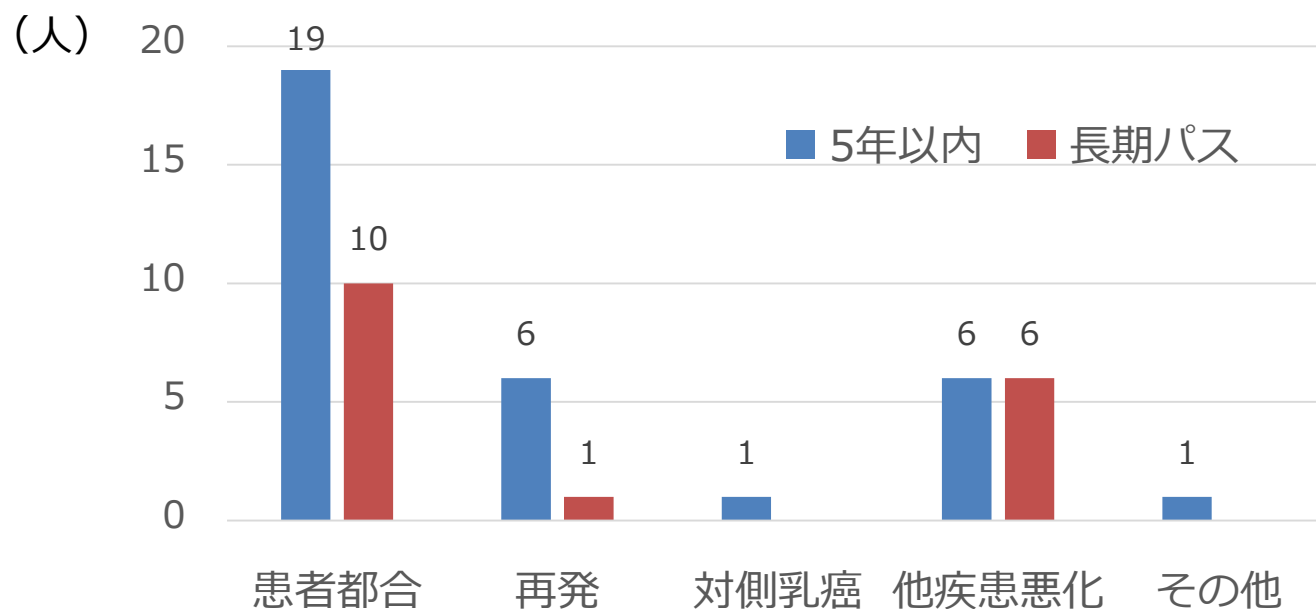
連携パスの運用状況（開始後9年目）

- 連携医療機関数 81施設、連携患者数 408名
5年目以降連携パスに移行 140名
(2020年10月末現在)



連携パス脱落例の検討

2011年4月～2020年10月 50名（14%） 松江赤十字病院



基本的には再発しないであろう患者さんを対象にしています。

全体の2%

ただし適応拡大例 4人（57%）

* 適応拡大は連携医療機関との相談の上

再発による連携パス脱落への対策

インパクト大

➤ 患者さん

- 1) ホルモン剤内服のアドヒアランスの維持
- 2) 有害事象に対するセルフマネージメント
- 3) 生活習慣病の管理

➤ 医療機関

- 1) 患者さんへの必要な情報提供（医師、薬剤師、看護師）
- 2) 連携医療機関同士の情報共有

ホルモン陽性乳がんに対する治療

内服ホルモン剤

SERM : タモキシフェン、トレミフェン

AI剤 : アナストロゾール、レトロゾール、エキセメスタン

* 有害事象が比較的少ない



- ・ 院外処方
- ・ 服薬指導 : 乳腺外科外来で医師のみが説明

内服の必要性、有害事象

資料 : 病理結果説明用紙

メーカーパンフレット利用など

十分かという
疑問! ?

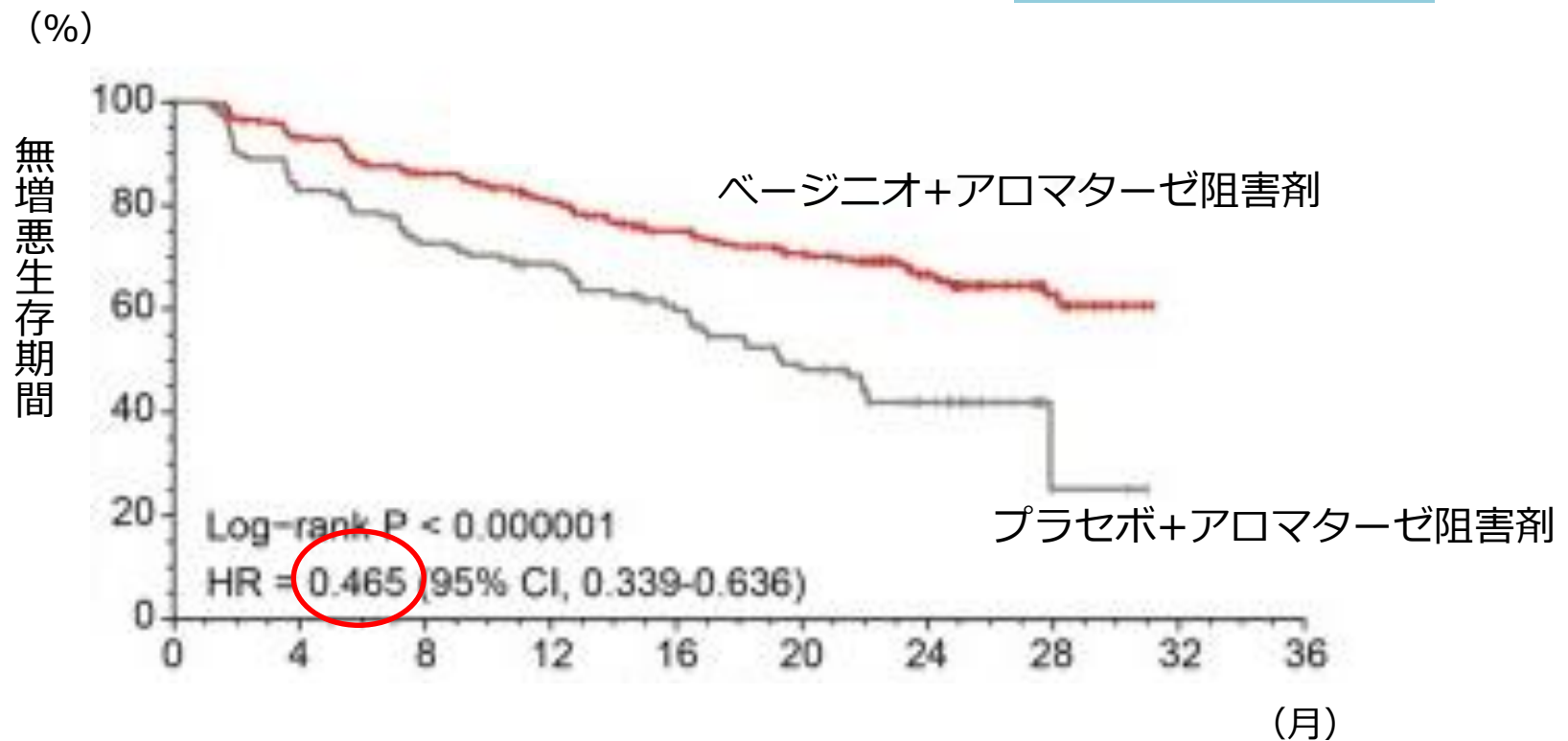
病-薬連携の一例



閉経後ホルモン陽性転移再発乳癌

ベージニオ：cdk4/6阻害剤の効果

一次内分泌療法



内服薬、院外処方

Johnston S, npj Breast Cancer 2019

病-薬連携支援ツールの導入

資料：

- メーカー作成パンフレット、治療日誌
- 適正使用のためのチェックシート
⇒調剤時に使用
- テレフォンプォローアップシート
⇒次回受診までの間の電話による
副作用確認の実施とその後の対応に使用

病-薬連携支援ツールの運用

【初回】

医師

初回処方

- メーカー作成パンフを渡す

保険薬局

調剤
服薬指導

- チェックシートを使用
- メーカーパンフによる服薬指導
- 必要に応じ処方医に疑義照会

保険薬局

副作用確認
(電話訪問)

- テレフォントラッキングシートを使用
- 副作用に応じ規定の対応を行う
- 結果を当院薬剤部にFAX (全て)

適正使用のためのチェックシート

アベマシクリブ(商品名: ベージニオ錠)

※禁忌・慎重投与・相互作用についてはご確認をお願いします
 ※チェックできない項目があった場合、処方医に休薬もしくは減量について疑義照会してください
 (緊急連絡先: 松江赤十字病院 0852-24-2111(代))

○適用疾患

手術不能または再発乳癌

運用方法を明記

○投与量・投与期間

用法・用量

通常投与量: 1回150mg 1日2回

1段階減量: 1回100mg 1日2回

2段階減量: 1回50mg 1日2回

休薬期間

なし

説明に使用する
資材を記載

○使用する資材

メーカー作成のパンフレット

- ・「ベージニオを使用される患者さんとご家族へ」・「ベージニオダイアリー」
- ・「患者さんのための高額療養費制度」

○来局時、テレフォンプォローアップ時に毎回必ず指導する内容

38.5℃以上の発熱時は病院に連絡するように指導してください

毎回指導する内容
を記載

○初回処方時の確認項目

1、適切な投与対象患者

妊娠していない 妊娠している人には原則

2、支持療法

下痢の予防薬としてロペラミドの処方あり

※泥状便になったとき、ロペラミドカプセル1mgを1回1個服用。4時間経過しても症状が改善していない場合は、さらに1個追加服用。1日4回まで。

ロペラミドの処方の確認をしてください

・支持療法を統一
・初回は必ず処方

3、併用療法

アロマトーゼ阻害薬、抗エストロゲン薬、LH-RHアゴニスト製剤の併用療法あり

いずれか1剤併用されていることを確認してください

- ・アロマトーゼ阻害薬: エキセメスタン(アロマシン)、アナストロゾール(アミデックス)、レトロゾール(フェマーラ)など
- ・抗エストロゲン薬: タモキシフェン(ノルパデックス)、トレミフェン(フェアストン)、フルベストラント(フェソロデックス)など
- ・LH-RHアゴニスト製剤: ゴセレリン(ゾラデックス)、リュープロレリン(リュープリン)など

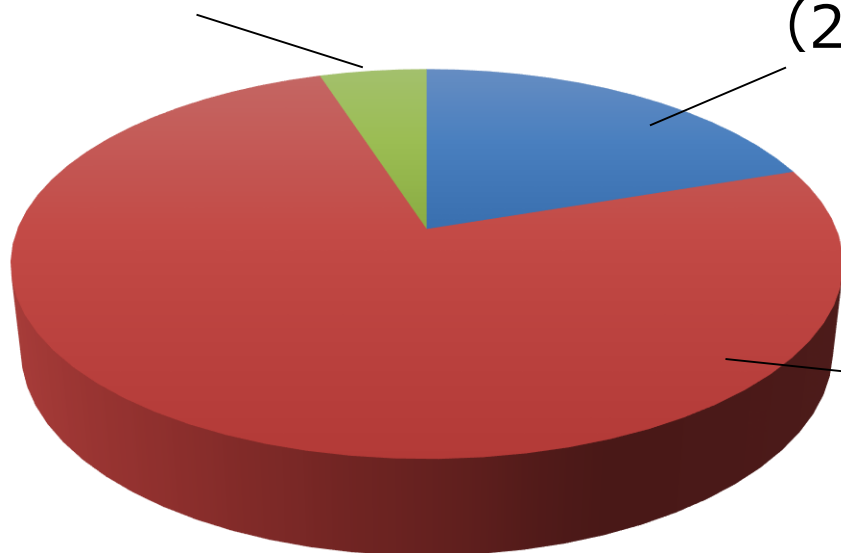
連携パス 5年終了後の経過

(全体101例)

2019年
勉強会スライド

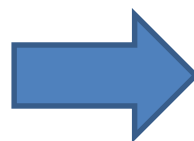
5年目以降のパス逸脱
(5例、5%)

連携パス終了
(20例、19.8%)



5年目以降のパス継続
(76例、75.3%)

* 連携前かかりつけ医のない 85例
5年目以降パス継続例 75.8%



かかりつけ医定着
= かかりつけ薬局

連携パスの充実のために

今回のテーマ:

保険薬局のご協力による連携パスの充実

本日の勉強会の後、皆様から意見をいただき、来年4月から連携パスに保険薬局の方のご協力をお願いしたいと考えています。

かかりつけ薬局として、連携パス患者さんへの関わりをお願いします

